

狂言きやうげん

しびり

太郎冠者たろうかじや

(独白) これはめいわくなことを言いつけられた。あそこへは太郎冠者、ここへは太郎冠者と、このように遣つかわれては、身もほねも続くことではない。よし今一度は参まゐろうが、このようなことは重ねての例れいになりたがる。何とぞして、参まゐりともないものじゃが。(思おもいついて) いや、いたしようがある。作病はくびやうを起こして、参まゐるまいとぞんずる。

(大きな声で) あいたあいた、あいたあいた、あいたあいた。

主あるじ

(独白) これはいかなこと。太郎冠者の声じゃ。

太郎冠者たろうかじや

(太郎冠者に向かつて) えい、太郎冠者。なんとした。しびりがきれました。

主あるじ

しびりほどのことをぎょうさんに言うものじゃ。どれどれなおしてやろう。

(ちりを拾って、太郎冠者の額ひたいへつけながら) それそれ。それでよかろう。

太郎冠者たろうかじや

これはなんでござる。

主あるじ

しびりのまじないに、額ひたいにちりをつければなおると言うによつてつけた。おおかた、それでよかろうぞ。

太郎冠者たろうかじや

いかないかな。わたくしのしびりは、親のゆずりのしびりでござるによつて、わらの一駄いちだや二駄にだ、つけた分ではなおりませぬ。